

道徳の時間で活用する ～公正、公平、社会正義～

柳井市立新庄小学校 森本 桂子

1 本場面におけるポイント

- 絵や写真、言葉から問題意識を高める
主題にかかわる写真や言葉を全員で見たり読んだりして、問題意識を高める。
- その場で書き込んで話し合う
主題に関係のあるページの記入欄に自分のことをあてはめて書き込み、主題への関心を高める。
- 価値意識を深め、実践へつなぐ
終末部分で、追求した価値や内容について考えを深めたりまとめたりすることにより、今までの自分を振り返り、実践に向けて決意する。

2 授業の実際

1 主題名 最後まで守る

資料名 海の勇者（出典 文溪堂 6年生の道徳）

2 ねらい 集団における自分の役割を自覚し、主体的に責任を果たそうとする態度を養う。

3 展開

(1) 導入 学校の中での自分たちの役割について話し合う。

教師：学校の中でどんな役目を担っているか。
 児童：〇〇委員会で委員長をしている。登校班の班長である。〇〇クラブの部長になった。掃除の班長をしている。
 教師：その役割をどのように果たしているか。
 児童：時間に遅れないように気を付けている。自分の担当日は忘れず仕事をしている。

□ 指導上の留意点等

学校生活には様々な役割があることを「私たちの道徳」P141の写真や言葉を見て確認し、自分の役割をP143の上段に書き込ませる。責任を果たすという本時の価値を意識させたい。

(2) 展開 船長の行動から、船長の気持ちを考える。

教師：カールセン船長は、責任を果たしたか、果たしていないか。
 A児：果たしていない。船員や客の命は守ったけれど、船を港まで戻すことができなかったから。人だけでなく船を安全に航海させるのも船長の仕事だと思うから。
 B児：果たした。嵐のため船は沈んでしまったけれど、最後まで諦めなかったから。
 C児：果たした。自然の力には勝てなかったけれど、自分にできることを粘り強くしたから。

□ 指導上の留意点等

船長としての責任を果たしたか果たしていないかという二つの選択肢を与えることによって、自分の考えを明確にさせる。そして、どちらかの立場に立たせることで、互いの意見を聞き合いながら、自分の考えが、より確かなものになるようにさせたいと思った。



まず、ネームカードを使い、黒板に貼らせることで、どちらの考えか立場をはっきり決めさせた。その後、自分と同じ考えの友達と意見交換をした。そして全体での伝え合う場を設けた。考えが変わればカードを動かすことを知らせ、考えを述べ合った。「責任を果たした派」が多い中、「責任を果たしていない派」も考えを伝え、責任を果たすとはどういうことか、自分の考えを深めることができた。

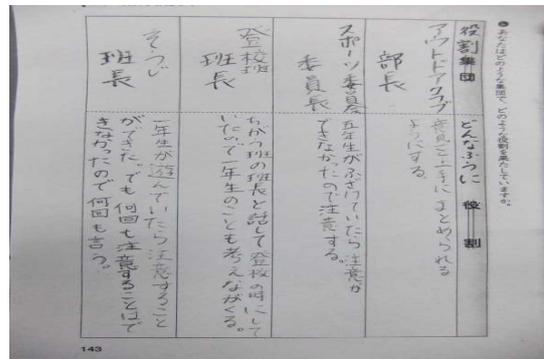
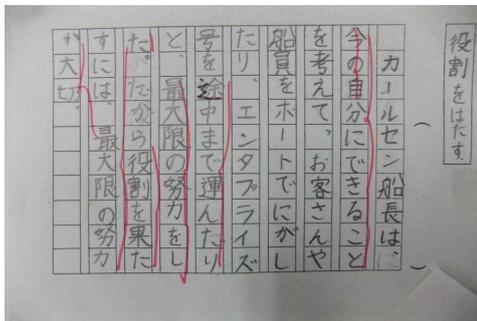


(3) 終末 本時の学習をまとめ、今までの自分を振り返る。

教師：自分の役割を果たすために大切なことは何だろう。
 A児：決められたことをするだけではなく、もっとすることはないか考えて行動すること。
 B児：自分のできることを考えて粘り強く取り組むこと。
 C児：諦めず、自分が納得するまでやり続けること。
 教師：カールセン船長のように、任された仕事への責任を果たしているか。
 A児：まあやればいいと、決められたことしかしていなかった。
 B児：自分に他にできることはないか考えながら仕事をしていなかった。もっとやれそう。

□ 指導上の留意点等

「私たちの道徳」P143を再び開き、導入で書いた役割の下の枠に、自分の取組方を振り返り、これからどうするかを記入させる。ただ仕事をこなすだけでよしとせず、どんな気持ちで取り組みたいかを書くことで、これからの実践につながるようにさせたいと考えた。



3 実践を振り返って

今回の授業では、導入と終末で「私たちの道徳」を活用した。

導入では、写真や言葉を見ることで自分の役割を確認しながら、道徳的価値を意識させることができた。また資料へのつなぎとしても有効であった。

終末では、自分のこれまでの仕事の取り組み方を見つめ直した。書く活動を取り入れることで、導入時と終末時での価値の捉え方の違いを比較させたいと考えて、導入で使ったページの表を、項目を変えてもう一度活用した。変更したことで児童に戸惑いも見られたが、変えた部分の表を提示するなど、工夫して準備すれば問題はないと思われる。道徳の時間に資料に関わらせることで、「私たちの道徳」は使いやすくなる。使い方を工夫して手を加えることも考えていきたい。

